

「乳がんホルモン療法効果予知診断」キットの開発

企 業 / 株式会社 ガルファーマ

研究者 / 河野 範男（東京医科大学 第3外科）他

乳がん再発防止のための術後補助ホルモン療法としては、タモキシフェンを用いる投与計画が全世界で普遍的に用いられている。現時点で同薬剤の効果予知因子とされるホルモンレセプターでは、その陽性症例に同薬剤を5年間投与しても約20%の患者に再発が認められ、効果予知因子としてホルモンレセプター以外の高精度な指標が切望されている。

当社が同薬剤の効果予知因子として見出した「メニン蛋白質」を検出する簡便な免疫組織染色キットを作製し、その有効性を乳がん69症例を用いて解析した。その結果、「メニン蛋白質」は他の効果予知因子（ホルモンレセプター等）より優れた因子であることを証明した。

本キットの実用化により、同薬剤無効の患者が投与前に同定可能となり、「メニン蛋白質」陽性症例では同薬剤とは異なる作用機序の薬剤（閉経前はLH-RH誘導剤、閉経後はアロマターゼ阻害剤）を選択することで、患者の再発率を低下させることが可能となる。

乳がん切除標本における「メニン蛋白質」の免疫組織染色

